

京都美術工芸大学 大学院

シラバス [2022 年度版]

工芸学研究科 建築学専攻**美術工芸科目**

工芸とデザイン	…	1
都市環境と芸術	…	2
美術工芸特論	…	3
インテリアデザイン特論	…	4

専門特論科目

伝統建築特論Ⅰ	…	5
伝統建築特論Ⅱ	…	6
建築計画特論Ⅰ	…	7
建築計画特論Ⅱ	…	8
建築設計特論Ⅰ	…	9
建築設計特論Ⅱ	…	10

専門特論科目

建築デザイン特別演習Ⅰ	…	11
建築デザイン特別演習Ⅱ	…	12
建築学特別研究Ⅰ	…	13
建築学特別研究Ⅱ	…	14
インターンシップⅠ	…	15
インターンシップⅡ	…	16

講義名	工芸とデザイン		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	美術工芸科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	K Y O B I 工芸学部

到達目標	工芸とデザインそれぞれの基礎概念とその展開について理解を深める。
授業概要	日本の近代化の過程のなかで、工芸とデザインは相互に関係しつつ発展してきた。こうした歴史的な側面を踏まえ、具体的な事例を概観することで工芸とデザインの基礎概念について考える。同時にそれらを歴史と分野を横断する連続的な事象とすることで、現代の工芸とデザインにおける相互関係の可能性について検討する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 「工芸」と「デザイン」の概念 1 第3回 「工芸」と「デザイン」の概念 2 第4回 工芸とデザイン ―言葉と制度 1 第5回 工芸とデザイン ―言葉と制度 2 第6回 工芸とデザイン ―教育 1 第6回 工芸とデザイン ―教育 2 第8回 工芸とデザイン ―消費と流通 1 第9回 工芸とデザイン ―消費と流通 2 第10回 工芸とデザイン ―都市と地域性 1 第11回 工芸とデザイン ―都市と地域性 2 第12回 現代の工芸とデザイン 1 第13回 現代の工芸とデザイン 2 第14回 現代の工芸とデザイン 3 第15回 総括
成績評価	授業態度及び期末レポートによって総合的に評価する。
教科書	特になし。適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	長田謙一・樋田豊郎・森仁史 編『近代日本デザイン史』美学出版、2006年 柏木博 監修『近代デザイン史』武蔵野美術大学出版局、2006年
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	講義内で適宜フィードバックをする。
科目ナンバリング	MAT-AC504L

講義名	都市環境と芸術		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	美術工芸科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程2年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOB I 工芸学部

到達目標	1) 都市生活と都市環境の関係を理解する。 2) 都市デザインの意義、役割を理解する。 3) 都市デザインの手法を理解する。
授業概要	我々が生活する都市は、ハードウェア面だけでなくソフトウェア面も含め、様々な要素によって構成されている。都市がいかんして今日の姿を形成するに至ったのかを読み解くことは、よりよい都市環境を実現する方法を探る上で不可欠である。 本講義では、都市デザインがなぜ生まれたのか、その歴史の変遷や展開、現代における都市デザインの役割などについて学び、都市をいかにデザインするか、その手法を提案するための基礎的な知識を身につけることをめざす。 講義では、事例を通じて都市デザインの目的、メカニズム、担い手、具体的デザイン手法を解説する。
授業計画 授業内容	講義は下記のスケジュールで進める。 第1回 オリエンテーション 第2回 日本の都市計画と行政システム 第3回 都市デザインとは-1都市デザインの定義 第4回 都市デザインとは-2都市デザインの歴史 第5回 都市デザイン手法-1都市を読む 第6回 都市デザイン手法-2空間情報 第7回 都市デザイン手法-3空間の構想 第8回 都市デザイン手法-4街並みの設計 第9回 都市デザイン手法-5ウォーターフロントの設計 第10回 都市デザイン手法-6都市デザインの制度とマネジメント 第11回 都市デザイン手法-7市民参加のまちづくり 第12回 都市デザインの実践-1都市のストック活用 第13回 都市デザインの実践-2都市の交通空間 第14回 都市デザインの実践-3都市の再生 第15回 総括 ただし、授業の進捗によりスケジュールを変更することがある。
成績評価	受講姿勢（40%）と学期末レポートの内容（60%）を総合して評価する。
教科書	1) 「アーバンデザイン講座」、前田英寿他、彰国社、2018年 2) その他、追加資料を配布する。
参考書 参考資料	「都市デザインの系譜」、土屋和男、鹿島出版会、1996年 「日本の建築スクール」、馬場璋造、王国社、2002年
履修上の注意	講義で紹介できる事例は限られている。講義の中で紹介した事例や参考文献をもとに、各自で積極的に関連事例に関する文献研究や現地調査を行い、現代の都市環境や都市デザインについて考究する。また、建築家による建築論・都市論についても分担して調査・報告を行う。
予習・復習指導	1回（1コマ）の講義について、4.5時間の予習復習をする。予習復習時間には、都市デザインの取り組み事例に関する文献研究の他、現地調査などに要する時間も含む。
関連科目	建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	建築家による建築論・都市論について調査・発表する。また、提出された期末レポート課題の内容に関して口頭発表、ディスカッションを行う。
教員の実務経験	行政機関及びその外郭団体等での都市計画、まちづくり、景観設計等に関する実務経験を持つ教員が指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-AC603L

講義名	美術工芸特論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	美術工芸科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程2年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOB I 工芸学部

到達目標	「美術工芸」とその周囲にある領域の基礎概念とその形成過程について理解を深める。
授業概要	本講義では、おもに日本の「近代」という時代を対象として、その過程のなかで形成されてきた「美術」「工芸」といった領域とその展開について検討する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 「美術」と「工芸」の概念形成 1 第3回 「美術」と「工芸」の概念形成 2 第4回 工芸と博覧会 1 第5回 工芸と博覧会 2 第6回 「美術」「工芸」と教育 1 第7回 「美術」「工芸」と教育 2 第8回 「美術」「工芸」と博物館 1 第9回 「美術」「工芸」と博物館 2 第10回 工芸と伝統 1 第11回 工芸と伝統 2 第12回 工芸と民芸 第13回 工芸と現代 1 第14回 工芸と現代 2 第15回 総括
成績評価	授業態度、期末レポートによって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	北澤憲昭『眼の神殿「美術」受容史ノート』1989年、美術出版社（2010年、ブリュッケ） 佐藤道信『明治国家と近代美術』1999年、吉川弘文堂
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：次回講義のテーマに関する配布文献資料を読み込んでおくこと。 復習：講義内容を整理しておくこと。
関連科目	工芸とデザイン
課題に対するフィードバックの方法	授業内で適宜フィードバックをおこなう。
科目ナンバリング	MAT-AC601L

講義名	インテリアデザイン特論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	美術工芸科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOB I 工芸学部

到達目標	1) 家具の種類と機能を理解できるようになる。 2) 実務におけるイスのデザインと製造技術について理解できるようになる。 3) イスのデザインにおける人間工学的アプローチについて理解できるようになる。 4) 世界の名作家具についての知識を活用できるようになる。
授業概要	居住空間の主要なインテリア・エレメントである家具は、人間の身体を支えて活動を支援する、空間を仕切る、演出するなどの機能を持つ。 本科目では、インテリアエレメントの中でも、人の身体に直接触れて使用する椅子を中心に、家具の歴史的な変遷、家具の種類と性能、家具の企画・エスキス・設計・製作に至るデザインプロセスについて学ぶ。
授業計画 授業内容	講義は下記のスケジュールで進める。 第1回 インテリアエレメントとしての家具 第2回 家具の分類 第3回 家具の種類 第4回 欧米の建築とインテリア 第5回 日本の建築とインテリア 第6回 家具の歴史(1) 欧米編 第7回 家具の歴史(2) 日本編 第8回 家具のデザインプロセス 第9回 家具のデザインイメージ 第10回 家具の材料 第11回 家具の構造 第12回 図法と図面 第13回 家具の仕上げ 第14回 家具と人間工学 第15回 家具の様々な機能 ただし、講義の進捗により、スケジュールを変更することがある。
成績評価	受講姿勢(40%)、学期末レポートの内容(60%)を総合して評価する。
教科書	1) 「Casa BRUTUS特別編集 名作椅子と暮らす。」、マガジンハウスムック CASA BRUTUS, マガジンハウス, 2018年 2) 適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	1) 「名建築と名作椅子の教科書」、アガタ・トロマノフ著、中村雅子訳、株式会社エクスナレッジ, 2019年 2) 「超図解で全部わかるインテリアデザイン入門[増補改訂版]」、アイブラフ、株式会社エクスナレッジ, 2019年 3) 「図解インテリア構成材 ー選び方・使い方ー(改訂2版)」、小宮容一、オーム社, 2002年
履修上の注意	授業で紹介できる作品の数は限られている。各自で積極的に各種書籍による文献研究や、家具店や工房の訪問などによる調査を行い、多くの家具との出会いを通じて、「生活を支える道具」としての家具のあり方を考究する。
予習・復習指導	1回(1コマ)の講義について、4.5時間の予習復習をする。予習復習時間には、家具作品および作家に関する文献研究の他、家具店などでの作品調査などに要する時間も含む。
関連科目	建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	提出された期末レポート課題の内容をもとに、ディスカッションを行う。
教員の実務経験	インテリアデザイン、家具デザイン、照明デザインなどに関する実務経験を有する教員が指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-AC502L

講義名	伝統建築特論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門特論科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重 幸子	K Y O B I 工芸学部

到達目標	京都の歴史的市街地の特徴的な存在である京町家および細街路（路地）が現在おかれている社会的状況に関する知識を習得し、それらの保全・継承・再生のための実践的能力を養う。
授業概要	京町家や細街路（路地）の保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり（コミュニティデザイン）に関する知識の習得と高度な理論の構築を目指す。授業時間内にフィールドワークおよび発表を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 京町家と社会（1）：木造をめぐる法制度の変遷 第3回 京町家と社会（2）：町家に対する京都の政策の変遷 第4回 京町家と社会（3）：京町家と生活文化 第5回 京町家と社会（4）：個別事例にみる町家の継承の形 第6回 フィールドワーク（京町家） 第7回 細街路概論 第8回 フィールドワーク（細街路） 第9回 フィールドワーク 成果発表 第10回 細街路の現状（1）：京都の細街路に関する調査結果 第11回 細街路の現状（2）：細街路をめぐる法制度の変遷 第12回 細街路の現状（3）：細街路における現代の生活 第13回 ワークショップ：路地まちづくりに関する調査 第14回 演習：路地再生計画 第15回 まとめと講評
成績評価	授業態度（10点満点）、フィールドワークおよび演習の成果物（30点満点）、定期試験（レポート形式）（60点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	京都市発行『京都市京町家施策集』 京都市発行『路地保全・再生デザインガイドブック』 西村幸夫『路地からのまちづくり』学芸出版社 鳴海邦碩『都市の自由空間―街路から広がるまちづくり』学芸出版社
履修上の注意	普段から市街地の状況に注意を払い、社会状況にも興味関心を持つこと。 フィールドワークや発表は特に欠席しないよう注意すること。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の事前学習をすること。受講に当たっては、事前に通知・配布する関連資料やホームページ上の資料を学習しておくこと。具体的には、京都市ホームページ「京町家情報館」において公開されている「京町家の保全・再生」および「密集市街地対策」のサイト等が該当する。
課題に対するフィードバックの方法	授業時間内に発表を行い、発表内容に対する講評を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-SL501L

講義名	伝統建築特論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門特論科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上 直樹	KYOB I 工芸学部

到達目標	我国の各時代の伝統建築の特徴の要点について、実例をとおして、それらを成立させた文化的、社会的及び技術史的背景をつまははは
------	--

講義名	建築計画特論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門特論科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOB I 建築学部

到達目標	建築家として必要な構造的・設備的知識を含めた計画的知識を習得する。 伝統建築と現代建築の共存・融合に関する知識を習得する。
授業概要	現代社会における多様なニーズに対応する建築計画における高度な知識と技術の修得を目的とする。 伝統建築と現代建築の共存・融合を考慮して、各種建築物における計画・構造・設備の総合的観点および実践的観点から、建築計画および設計の可能性を探る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 伝統建築と現代建築の共存・融合の可能性 第3回 住宅・居住空間 (1) 第4回 住宅・居住空間 (2) 第5回 教育施設 (1) 第6回 教育施設 (2) 第7回 文化施設 (1) 第8回 文化施設 (2) 第9回 医療・福祉施設 (1) 第10回 医療・福祉施設 (2) 第11回 観光・宿泊施設 (1) 第12回 観光・宿泊施設 (2) 第13回 建築のリノベーション (1) 第14回 建築のリノベーション (2) 第15回 まとめ
成績評価	授業態度 (積極性) (30点満点)、レポート (70点満点) を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『第3版コンパクト建築設計資料集成』 (丸善) 『現代建築学 建築計画2』 (鹿島出版会)
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画特論Ⅱ、伝統建築特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	講義の中で演習の講評や質疑、応答などを行う
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-SL503L

講義名	建築計画特論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門特論科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	KYOB I 建築学部

到達目標	伝統建築と現代建築の共存・融合の視点から、建築における総合性、建築と社会の関係などを理解した上で、建築をめぐる現代的課題について柔軟に対応できる、持続可能性の高い建築空間の構成力を身につける。
授業概要	建築デザイン、地域社会、現代社会の把握、環境の快適性、建築の安全性、インテリアデザインなど、伝統建築と現代建築の共存・融合の視点から、これまで学習した建築計画の各専門領域の広がり相互の繋がりを理解し、より高度に空間構成をとらえる能力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 伝統建築と現代建築の共存・融合の試み (1) 第3回 伝統建築と現代建築の共存・融合の試み (2) 第4回 伝統建築と現代建築の共存・融合の展望 第5回 これからの建築計画の組織とプロセス 第6回 これからの建築計画と社会システム 第7回 建築における実践と研究の新たな関係 第8回 環境的持続可能性と建築計画 (1) 第9回 環境的持続可能性と建築計画 (2) 第10回 社会的持続可能性と建築計画 (1) 第11回 社会的持続可能性と建築計画 (2) 第12回 文化的持続可能性と建築計画 (1) 第13回 文化的持続可能性と建築計画 (2) 第14回 研究発表・講評 (1) 第15回 研究発表・講評 (2)
成績評価	研究発表 (30点満点)、期末レポート (70点満点) を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画特論Ⅰ、伝統建築特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	講義の中で演習の講評や質疑、応答などを行う
科目ナンバリング	MAT-SL504L

講義名	建築設計特論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門特論科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOB I 工芸学部

到達目標	変化する社会にシなやかに適合するとともに、高度な専門知識と豊かな教養を發揮し、現実の課題を解決していく実践力を身に付けるための知識・技術・技能を理論的に理解することを到達目標とする。
授業概要	建築作品の創造という動機と現実の建築設計との関連性を探る。具体的には、前半において課題解決型の設計プロセスから課題発見解決策提案型の設計プロセスについて解説する。後半においては、今日の建築に大きな影響を及ぼした近現代の建築家の思想と建築作品を通じて、建築の設計理念や手法が社会的資産としてどのように展開しているかを概観する。（見学、レポート提出も想定）
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 建築設計（デザイン）について 第3回 テーマ設定 第4回 コンセプト 第5回 ダイアグラム 第6回 建築デザイン 第7回 中間総括 第8回 レポート発表 第9回 近現代建築思想史と著名な建築について概観 第10回 プレモダン・モダニズム 第11回 ハイモダン・レイトモダン 第12回 ポストモダン・ネオモダン 第13回 批評的地域主義 第14回 クリティカル・メイキング 第15回 総括 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	小レポート（30点満点）期末レポート（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	テキスト建築意匠 平尾和洋、末包信吾他著 学芸出版社
履修上の注意	現代的問題・課題を図書・書籍、ニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」+「構想力」）
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅱ、インターシップⅠ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ、建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ
科目ナンバリング	MAT-SL505L

講義名	建築設計特論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門特論科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見 将敏	KYOB I 工芸学部

到達目標	学生が自ら問題を見出し、自ら解決策を探索し新しい建築を創造して行けるための実務的な建築に関する「知識」と「技術・技能」および「デザイン力」を論理的に理解することを到達目標とする。
授業概要	建築作品の創造という動機と現実の建築設計との関連性を探る。具体的には、前半は、建築設計の実務の流れに沿って基本計画、基本設計、実施設計等を具体的なプロジェクトをもとに解説する。後半は、いくつかの今日的な建築事例をとりあげ、そこに含まれる課題について考察を行う。（授業内での議論、見学、レポート提出も想定）
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 : ガイダンス 第 2 回 : 建築設計の実務について 第 3 回 : 企画業務・基本計画 第 4 回 : 基本設計・実施設計 第 5 回 : 設計工事監理・工事完成後業務 第 6 回 : 中間総括 第 7 回 : レポート発表 第 8 回 : 今日的な課題となっている建築について 第 9 回 : 今日的課題の分析 第 10 回 : グローバル／ローカル 第 11 回 : リノベーション 第 12 回 : サステイナブル 第 13 回 : マテリアル 第 14 回 : レポート発表 第 15 回 : 総括 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート＋期末レポート」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	自作プリント
参考書 参考資料	なし
履修上の注意	建築は政治・経済・社会・文化等あらゆる分野と関連しているため、それらの基礎知識を習得し社会の仕組みを理解していること、また、現代的課題を書籍やニュース等から日々情報を得て、自らの課題として認識していることが重要である。さらに、豊かな生活実現、都市環境のあり方に興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街のあり方、情景等について日々発見する心掛けが重要である。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	建築設計特論Ⅰ、建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	中間レポートは講義中に結果報告を行い、期末試験は掲示等で結果報告する。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	MAT-SL506L

講義名	建築デザイン特別演習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	6		
科目分類名	専門研究科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOB I 工芸学部
教授	井上 晋一	KYOB I 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOB I 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 工芸学部
准教授	宮内 智久	KYOB I 工芸学部

到達目標	機能面、構造面、建築構法、環境デザインなどと連動した、高度な設計内容の構築を目標とする（一級建築士資格を有する教員からのアドバイスを受けながらスタディを進める）。
授業概要	建築の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザイン力について、より高度な知識とデザイン力を養う。建築設計は基準法で集団規定と単体規定から規定されていることから分かるように、内発する思考だけではなく周辺環境における位置づけも明確にする必要がある。そうした観点も念頭に据えて建築の持つ創作的な視界について思考を深めていく。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、課題説明 第2回 与件把握 第3回 課題分析・関連法規分析 第4回 関連事項研究1 第5回 関連事項研究2 第6回 計画案作成1 第7回 計画案作成2（構造及び設備的検討） 第8回 スタディ模型作成1 第9回 スタディ模型作成2・中間報告 第10回 詳細検討・全体計画1 第11回 詳細検討・全体計画2 第12回 詳細検討・全体計画3 第13回 図面作成1 第14回 図面作成2 第15回 最終審査（講評会） ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	提出作品の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現（文章・作図）力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	特になし
参考書 参考資料	演習時間の中で配布
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ
科目ナンバリング	MAT-SR501S

講義名	建築デザイン特別演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	6		
科目分類名	専門研究科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上 直樹	KYOB I 工芸学部
教授	高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	森重 幸子	KYOB I 工芸学部

到達目標	都市施設を題材とし、サステナブル・デザインの視点から、機能面、構造面、エネルギー面における実現性や合理性の模索、デザインを裏付ける客観データの収集、都市環境との適合性などを現地サーベ이를ベースとしながら、高度な設計内容の構築を目標とする。
授業概要	都市・地域の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成 法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザイン力について、より高度な知識とデザイン力を養う。(学内外で実際の設計活動に携わる建築家教員(一級建築士)で、本専攻が相応しいと認めたもの最小1名を含み、複数教員による共同指導)
授業計画 授業内容	第1回: ガイダンス 第2回: スタディ(与件把握) 第3回: スタディ(与件把握) 第4回: スタディ(与件把握) 第5回: スタディ(与件把握) 第6回: スタディ(デザイン) 第7回: スタディ(デザイン) 第8回: スタディ(デザイン) 第9回: スタディ(デザイン) 第10回: スタディ(詳細検討・全体計画) 第11回: スタディ(詳細検討・全体計画) 第12回: スタディ(詳細検討・全体計画) 第13回: スタディ(プレゼンテーション) 第14回: スタディ(プレゼンテーション) 第15回: 最終審査(講評会)
成績評価	提出作品の内容から総合評価を行う。
教科書	なし
参考書 参考資料	演習時間の中で配布
履修上の注意	建築は政治・経済・社会・思想・文化などあらゆる分野と関連しているため、それらの基礎知識を習得し、社会の仕組みを理解していること、現代的問題・課題を図書・書籍、ニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。(「認識力」) また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。(「観察力」+「構想力」)
予習・復習指導	一講義(2コマ)に対して3時間の予習復習をすること。 (特記事項) 設計課題と類似する実例(複数)を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ
教員の実務経験	32年間の建築計画・設計・監理実務経験を有する。11年間の大学専任教員の実務経験を有する
教員の実務経験有無	有する。
科目ナンバリング	MAT-SR502S

講義名	建築学特別研究 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	6		
科目分類名	専門研究科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程2年次		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	井上 晋一	KYOB I 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOB I 建築学部
教授	山内 貴博	KYOB I 工芸学部
教授	森重 幸子	KYOB I 工芸学部
講師	江本 弘	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	岡北 一孝	KYOB I 工芸学部

到達目標	取り組むべき研究課題を見出し、仮説の実証に必要な調査・分析を行えること。また、推敲を重ね論もしくは制作物を構築し、その成果をプレゼンテーションできること。
授業概要	各自の研究テーマに沿って、修士研究（修士論文または修士設計）を行い、それに対して担当指導教員および建築家教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員および学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士制作や論文の完成を目指す。
授業計画 授業内容	研究課題・研究計画・研究方法の策定指導、調査・実験等の内容報告と討議、修士研究作成の指導、口頭発表練習等を行う。 全15回 第1回 ガイダンス 研究内容の説明・資料紹介・日程の打合せ 第2回 研究課題の企画1 既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類 第3回 研究課題の企画2 資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味、内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討 第4回 研究課題の企画3 研究課題に関する主要資料の選択、追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討 第5回 研究課題の企画4 研究課題の検討と策定 第6回 研究課題の立案1 研究計画の検討と策定 第7回 研究課題の立案2 研究方法の検討と策定 第8回 研究課題の立案3 調査・実験等の実施 第9回 研究課題の立案4 調査・実験等の実施 第10回 中間報告 中間報告と討議 第11回 研究課題の展開1 調査・実験等の結果に対する収集整理 第12回 研究課題の展開2 調査・実験等の結果に対する収集整理 第13回 研究課題の展開3 追加の調査・実験等の検討 第14回 研究課題の展開4 追加の調査・実験等の実施 第15回 最終報告 最終結果の報告と検討
成績評価	建築学特別研究 I の中間・最終成果品等の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現（文章・作図）力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	各指導教員の方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。
参考書 参考資料	特に定めないが、自主的な要望に沿って参考資料を紹介する。
履修上の注意	設計実習・調査の成果を踏まえ、指導教員と密度ある議論を重ねながら、学生が主体的に修士研究のまとめを行うこと。
予習・復習指導	ゼミ指導等に積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。
関連科目	建築学特別研究 II
課題に対するフィードバックの方法	毎回のゼミ指導において、進捗状況等に関するコメントや指導を行う。また、中間報告および最終報告における発表に対して講評を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	MAT-SR603S

講義名	建築学特別研究Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	6		
科目分類名	専門研究科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程2年次		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	KYOB I 建築学部
教授	井上 晋一	KYOB I 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOB I 建築学部
教授	山内 貴博	KYOB I 工芸学部
教授	森重 幸子	KYOB I 工芸学部
講師	江本 弘	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築学特別研究Ⅰの成果を更に発展させ、豊かな内容を盛り込んだ納得の修士研究としてまとめ上げること。
授業概要	各自の研究テーマに沿って、より高度なレベルで、修士研究（修士論文または修士設計）を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員および学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士制作や論文の完成を目指す。
授業計画 授業内容	研究課題・研究計画・研究方法の策定指導、調査・実験等の内容報告と討議、修士研究作成の指導、口頭発表練習等を行う。 全第15回 第1回 ガイダンス 研究内容の説明・資料紹介・日程の打合せ 第2回 研究課題の継続1 レビューを踏まえた研究課題の検討と確認 第3回 研究課題の継続2 作業の実施と結果の検討 第4回 研究課題の継続3 作業の実施と結果の検討 第5回 研究課題の継続4 作業の実施と結果の検討 第6回 研究課題の発展1 研究課題を支える調査・実験等を説明する丁寧な記述 第7回 研究課題の発展2 研究課題を支える調査・実験等を説明する丁寧な記述 第8回 研究課題の発展3 調査・実験等から得られたデータの分かりやすい表示 第9回 研究課題の発展4 調査・実験等から得られたデータの分かりやすい表示 第10回 中間報告 中間報告と討議 第11回 研究課題のまとめ1 研究成果物の構成について討議 第12回 研究課題のまとめ2 研究成果物の内容について討議 第13回 研究課題のまとめ3 最終成果品の発表、討議 第14回 研究課題のまとめ4 最終成果品の修正作業、展示 第15回 最終報告 講評会
成績評価	建築学特別研究Ⅱの中間・最終成果品等の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現（文章・作図）力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	各指導教員の方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。
参考書 参考資料	特に定めないが、自主的な要望に沿って参考資料を紹介する。
履修上の注意	設計実習・調査の成果を踏まえ、指導教員と密度ある議論を重ねながら、学生が主体的に修士研究のまとめを行うこと。
予習・復習指導	特になし （特記事項） ゼミ指導等に積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。
関連科目	建築学特別研究Ⅰ
科目ナンバリング	MAT-SR604S



講義名	インターンシップ I		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	8		
科目分類名	専門研究科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程1年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上 年和	K Y O B I 工芸学部

到達目標	実務能力を養うことを目指し、設計実務における理念や展望を持続する能力、思考力や判断力等の実務能力に重点を置くものとする。また、近年の設計業務における経済面と時間面を優先する動向に対し、良識と責任感を全うできる人材の育成を目指す。																					
授業概要	1年夏季に一定期間継続して学外の一級建築士事務所に出向き、設計業務の補佐をとおして、実務の一端を体得しながら、実践的なデザイン手法及びそのプロセスを学ぶ。なお、実習先は本専攻が相応しいと判断した一級建築士事務所に限る。																					
授業計画 授業内容	<研修期間> 研修日数は実質45日（360時間）（ガイダンス・報告会等を除く）とする。研修計画、報告書等の作成を含め、それぞれ5日/週×9週、4日/週×11週、3日/週×15週などを目安に研修計画を立てる。 <提出書類> 研修に先立って、研修先および研修内容の概略について担当教員と相談の上、各自の研修計画書を作成する。研修終了時には別途定める書式によって研修報告書を作成し、研修先責任者のコメント記入および押印を受けたものを提出する。 <研修内容> 原則として、下記から2分野以上についての補佐業務を体験するものとする。 ・基本設計補佐業務（基本設計案についてのプレゼンテーション準備、模型作製等……） ・実施設計補佐業務（実施設計図の修正、照合、確認、整備等……） ・工事監理補佐業務（現場進行状況の視察・撮影、施工図のチェック等……） ・その他の補佐業務（上記各業務に関わる打合せへの参加、資料の収集整理等……） 全15回 <table><tr><td>第1回</td><td>ガイダンス</td><td>ガイダンス・概要説明</td></tr><tr><td>第2回</td><td>受入先との調整</td><td>実習の内容、スケジュールの確認</td></tr><tr><td>第3回</td><td>実習の内容の確認</td><td>実習の内容についての相互確認</td></tr><tr><td>第4～12回</td><td>実習1～9</td><td>受入先の指示に従って、実習を行う</td></tr><tr><td>第13回</td><td>実習成果のまとめ1</td><td>報告書（実習で得た知見等）の作成</td></tr><tr><td>第14回</td><td>実習成果のまとめ2</td><td>報告書の実習先への確認・承認</td></tr><tr><td>第15回</td><td>実習の講評</td><td>実習内容の学内プレゼンテーション</td></tr></table>	第1回	ガイダンス	ガイダンス・概要説明	第2回	受入先との調整	実習の内容、スケジュールの確認	第3回	実習の内容の確認	実習の内容についての相互確認	第4～12回	実習1～9	受入先の指示に従って、実習を行う	第13回	実習成果のまとめ1	報告書（実習で得た知見等）の作成	第14回	実習成果のまとめ2	報告書の実習先への確認・承認	第15回	実習の講評	実習内容の学内プレゼンテーション
第1回	ガイダンス	ガイダンス・概要説明																				
第2回	受入先との調整	実習の内容、スケジュールの確認																				
第3回	実習の内容の確認	実習の内容についての相互確認																				
第4～12回	実習1～9	受入先の指示に従って、実習を行う																				
第13回	実習成果のまとめ1	報告書（実習で得た知見等）の作成																				
第14回	実習成果のまとめ2	報告書の実習先への確認・承認																				
第15回	実習の講評	実習内容の学内プレゼンテーション																				
成績評価	研修報告書の内容を、研修計画の立案、研修業務内容、業務の習熟度、報告書作成能力、プレゼンテーション力の5つの観点から評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。																					
教科書	特になし																					
参考書 参考資料	ケースに応じて指導教員または受入れ責任者から指示がある。																					
履修上の注意	【実時間（ガイダンス・報告会等を除く）】360時間																					
予習・復習指導	各回とも、実数先からの指示により、時間外での作業を継続する。																					
関連科目	建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ																					
科目ナンバリング	MAT-SR505P																					

講義名	インターンシップⅡ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	8		
科目分類名	専門研究科目		
科目分野名			
配当年次	修士課程2年次		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上 年和	KYOB I 工芸学部

到達目標	実務能力を養うことを目指し、設計実務における理念や展望を持続する能力、思考力や判断力等の実務能力に重点を置くものとする。また、近年の設計業務における経済面と時間面を優先する動向に対し、良識と責任感を全うできる人材の育成を目指す。
授業概要	2年夏季に一定期間継続して学外の一級建築士事務所に出向き、設計業務の補佐をとおして、実務の一端を体得しながら、実践的なデザイン手法及びそのプロセスを学ぶ。なお、実習先は本専攻が相応しいと判断した一級建築士事務所に限る。ただし、インターンシップⅠを履修した場合、異なる実習先を選択する。
授業計画 授業内容	〃＜研修期間＞ 研修日数は実質45日（360時間）（ガイダンス・報告会等を除く）とする。研修計画、報告書等の作成を含め、それぞれ5日/週×9週、4日/週×11週、3日/週×15週などを目安に研修計画を立てる。 ＜提出書類＞ 研修に先立って、研修先および研修内容の概略について担当教員と相談の上、各自の研修計画書を作成する。研修終了時には別途定める書式によって研修報告書を作成し、研修先責任者のコメント記入および押印を受けたものを提出する。 ＜研修内容＞ 原則として、下記から2分野以上についての補佐業務を体験するものとする。 ・基本設計補佐業務（基本設計案についてのプレゼンテーション準備、模型作製等……） ・実施設計補佐業務（実施設計図の修正、照合、確認、整備等……） ・工事監理補佐業務（現場進行状況の視察・撮影、施工図のチェック等……） ・その他の補佐業務（上記各業務に関わる打合せへの参加、資料の収集整理等……）” 全15回 第1回 ガイダンス ガイダンス・概要説明 第2回 受入先との調整 実習の内容、スケジュールの確認 第3回 実習の内容の確認 実習の内容についての相互確認 第4～12回 実習1～9 受入先の指示に従って、実習を行う 第13回 実習成果のまとめ1 報告書（実習で得た知見等）の作成 第14回 実習成果のまとめ2 報告書の実習先への確認・承認 第15回 実習の講評 実習内容の学内プレゼンテーション
成績評価	研修報告書の内容を、研修計画の立案、研修業務内容、業務の習熟度、報告書作成能力、プレゼンテーション力の5つの観点から評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	特になし
参考書 参考資料	ケースに応じて指導教員または受入れ責任者から指示がある。
履修上の注意	【実時間（ガイダンス・報告会等を除く）】360時間
予習・復習指導	各回とも、実数先からの指示により、時間外での作業を継続する。
関連科目	建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ
科目ナンバリング	MAT-SR606P